

# 必殺、穴熊囲い

さく:しみず たくと



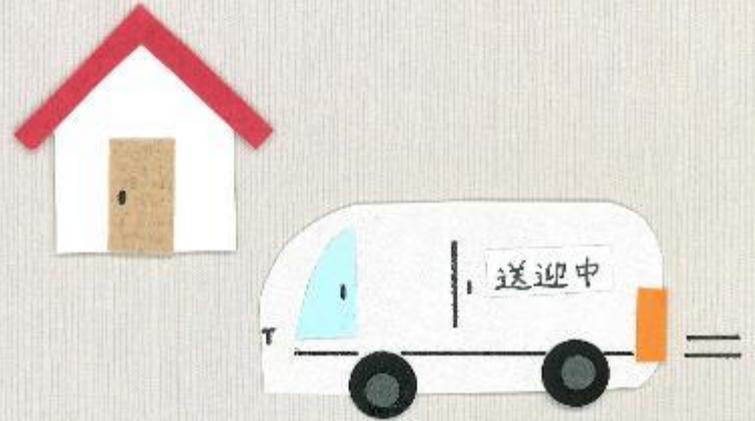
ゲンさんは庭仕事をしていたとき、はしごから落ちて、  
胸から下の筋肉が動かせなくなる脊髄損傷になってしまいました。

病院での厳しいリハビリの後、  
ようやく住み慣れた家に帰ってきました。



退院後、ゲンさんは週1回、デイサービスに通っていましたが、それ以外の時間はベッドで過ごしていました。

心配した家族はケアマネジャーに相談し、訪問リハビリが開始されました。



作業療法士はケアマネジャーと一緒にゲンさんの家を訪問し、ゲンさんに困っていることや、やりたいことを聞きました。

「今はやりたいことはない」  
「寝ている方が楽だ」  
とゲンさんは答えました。

そのため、作業療法士は  
「体力をつけてから一緒にやりたいことを考えましょう」と提案しました。

ゲンさんは渋々、提案を受け入れてくれました。



週1回の訪問リハビリがはじまりました。

ゲンさんはベッドの上で過ごすことが多くなっていたので、一人で体を起こすことが難しくなっていました。

作業療法士はストレッチや筋力をつける練習、体を起こす練習などをしました。

2ヶ月後、  
ゲンさんは一人で体を起こすことができるようになりました。  
でも、ゲンさんはうれしそうではありません。



ある日、作業療法士がゲンさんの家に訪問すると、  
ゲンさんは将棋のテレビを観ていました。

いつも言葉数の少ないゲンさんが、  
「よく仕事の合間にやったな」  
「今は相手もないし、疲れるからできないな」  
とつぶやくように言いました。



もう一度ゲンさんに将棋を楽しんでもらうために  
何かいい方法はないか、作業療法士は考えました。

そうだ！！ゲンさんに将棋を覚えてもらおう！

「ゲンさん、将棋の弟子にしてください」

ゲンさんはニヤリと笑いながら  
「俺は厳しいぞ」と弟子にしてくれました。



次の週から、ゲンさんは身体を動かすリハビリをした後に  
作業療法士に将棋を教えてくださいました。

作業療法士の将棋が上達すると、  
ゲンさんは「穴熊囲い」という必殺技を伝授してくれました。

「穴熊囲い」は最強の守備の陣形と言われ、  
ゲンさんが最も得意とする技でした。



ゲンさんは車椅子に長く座ってられるようになりました。  
訪問リハビリがない日は孫と将棋を指すようになりました。

ゲンさんに、困っていることややりたいことを聞きました。

「施設対抗の将棋大会で優勝したい」

周辺のデイサービスでは年に一度、  
施設対抗の将棋大会が開かれており、  
ゲンさんはその大会への出場に興味を示したのです。

作業療法士はデイサービスの職員と話し合い  
デイサービスでも将棋を導入してもらいました。

また、仕事仲間にも協力してもらい、  
週1回将棋を指しに来てもらうことにしました。



3ヶ月後、施設対抗将棋大会が開催されました。

ゲンさんは「穴熊囲い」を使い予選を突破！

しかし、本戦では敗退してしまいました。

「まだまだ練習が足りない」

「次は優勝する」

ゲンさんは来年の将棋大会への参加に意欲的です。

その後、デイサービスを週2回に増やし、  
訪問リハビリは卒業しました。



作業療法士は  
ゲンさんを将棋大会で優勝させることはできませんでしたが、  
ゲンさんの心の囲いを崩すことはできたようです。

ゲンさんの挑戦はこれからです。

頑張れ、ゲンさん！！

